

雲南懇話会の概況

2021年12月現在
安仁屋政武

発足：2004年12月、発起人：

松浦 祥次郎, 沖津 文雄, 谷口 朗, 野村 高史, 伊藤 寿男, 安仁屋 政武, 泉谷 洋光, 前田 栄三, 渡辺 良男,
出雲路 敬明, 芝田 正樹, 甲斐 邦男, 山岸 久雄, 岩脇 康一, 幸島 司郎, 佐治 与志也, 宮坂 実, 東 卓夫

2005年3月26日東京・神田、学士会館にて第1回雲南懇話会の開催

現行組織：

代表：安仁屋政武

代表代行：山岸久雄、河合明宣、幸島司郎

幹事：

代表幹事：前田栄三

企画：秋畑進、上久保達夫、宮坂実、上原美奈子

会計：芝田正樹

ML/HP管理：前田浩之、遠藤州、大原一郎、田中貴

全般：芝田正樹、岩脇康一、頭師正子、小林尚礼、長谷川岳子

監事：伊藤博明、古瀬駿介(名誉監事、弁護士)

共催：(一社)京都大学学士山岳会(AACK)

会の運営と運営基盤

- 基本的に参加者からの会毎の参加金
- AACKからの支援金
 - ✓ 個人他からの寄付金
 - ✓ Field Studies参加者からの寄付金
 - ✓ 懇話会に参加したAACK及び笹ヶ峰会会員からの賛助金(初期)
 - ✓ AACK及び笹ヶ峰会会員の講師無償奉仕
 - ✓ 幹事団の無償奉仕
 - ✓ JICA施設(国際会議場)の継続使用
- 2016-2019 京都大学ヒマラヤ研究ユニットと共催
- 現在はAACKとの共催

活動状況

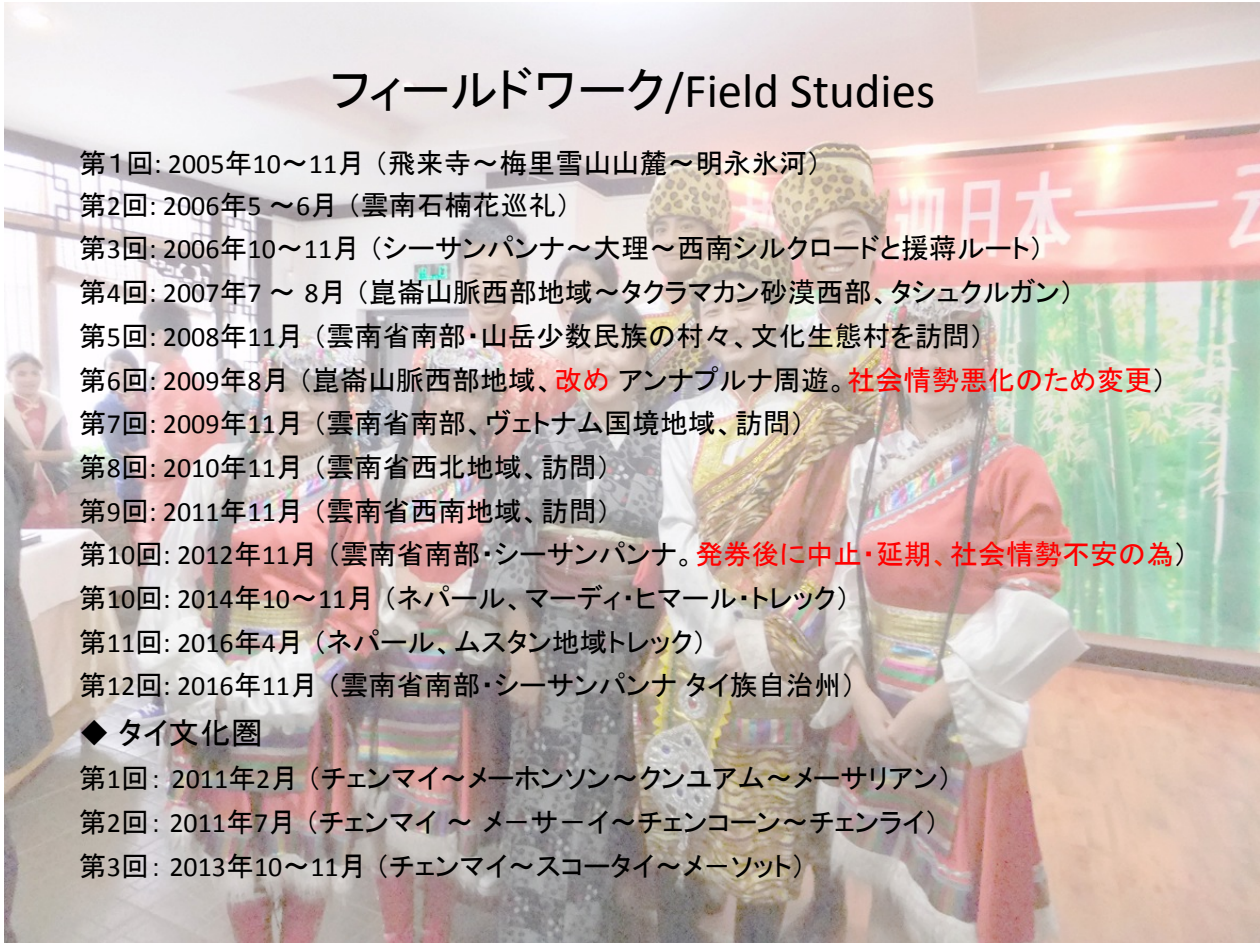
2005年3月～2021年12月

- ◆ 開催回数: 今回を含めて54回(その内2回はコロナのため中止)
- ◆ 開催場所: JICA研究所(東京・市ヶ谷) 44回
学士会館、国立極地研究所、一橋講堂、東京慈恵会医科大学(2)
明治大学、京都アカデミアフォーラム(東京・新丸ビル)、京都大学
- ◆ 延べ参加者数: 概数4919名、実質1回平均約100名
- ◆ 演題の件数: 239件
- ◆ 講師の員数: 延べ243名(複数回講師多数)
所属: AACK・笹ヶ峰会会員 69名、非会員 174名
大学・研究機関等関係者(院生を含む): 128名
岳人・溪谷等探求家: 47名
作家、写真家、旅行家、地域研究調査等の活動家: 35名
その他(鷹匠、尾瀬の住人、石油事業): 3名

演題の国/地域/文化圏

- ❖ 雲南省(39)、貴州省(1)、四川省(3)、チベット自治区(9): 計52件
- ❖ 新疆ウイグル自治区(8)、内モンゴル自治区(3)、モンゴル国(4)、
中央アジア(9)、イラン(2): 計26件
- ❖ タイ文化圏(インド北東部、ミャンマー北部～北東部、タイ北部、ラオス北部、
ヴェトナム北西部、雲南省西南部～南部(紅河以南の地域)): 計39件
- ❖ ブータン、ネパール、パキスタン、インド、チベット高原南部
(ヒンドゥークシュ、カラコルム、ヒマラヤ高峰登山、氷河など): 計63件
- ❖ 極地(南極3、北極2、両極1): 計6件
- ❖ アフリカ地域: 計9件
- ❖ 南アメリカ: 計4件
- ❖ その他: 計40件

➤ 詳しくは雲南懇話会HP: www.yunnan-k.jp



フィールドワーク/Field Studies

- 第1回: 2005年10～11月（飛来寺～梅里雪山山麓～明永氷河）
- 第2回: 2006年5～6月（雲南石楠花巡礼）
- 第3回: 2006年10～11月（シーサンパンナ～大理～西南シルクロードと援蒋ルート）
- 第4回: 2007年7～8月（崑崙山脈西部地域～タクラマカン砂漠西部、タシュクルガン）
- 第5回: 2008年11月（雲南省南部・山岳少数民族の村々、文化生態村を訪問）
- 第6回: 2009年8月（崑崙山脈西部地域、**改め** アンナプルナ周遊。**社会情勢悪化のため変更**）
- 第7回: 2009年11月（雲南省南部、ヴェトナム国境地域、訪問）
- 第8回: 2010年11月（雲南省西北地域、訪問）
- 第9回: 2011年11月（雲南省西南地域、訪問）
- 第10回: 2012年11月（雲南省南部・シーサンパンナ。**発券後に中止・延期、社会情勢不安の為**）
- 第10回: 2014年10～11月（ネパール、マディ・ヒマール・トレック）
- 第11回: 2016年4月（ネパール、ムスタン地域トレック）
- 第12回: 2016年11月（雲南省南部・シーサンパンナ タイ族自治州）

◆ タイ文化圏

- 第1回: 2011年2月（チェンマイ～メーホンソン～クンユアム～メーサリアン）
- 第2回: 2011年7月（チェンマイ～メーサーイ～チェンコーン～チェンライ）
- 第3回: 2013年10～11月（チェンマイ～スコタイ～メーソット）

第1回：2011年2月（チェンマイ～メーホンソン～クンユアム～メーサリアン）
第2回：2011年7月（チェンマイ～メーサーイ～チェンコーン～チェンライ）
第3回：2013年10～11月（チェンマイ～スコータイ～メーソット）

1990～1995、2000、2007～2019

合計66編

	ISSN 0914-8620
ヒマラヤ学誌	
第 20 号	
目 次	
編集委員	編集委員
第 17 次ブロンテ国際シンポジウム報告	
ブロンテの国際シンポジウム報告 1920 年 初めての集い	
ブロンテ国際シンポジウム 2004 年 第 17 回大会の報告	田中真知子 2
ブロンテ国際シンポジウム 2004 年 初めての集い	田中真知子 34
京大ブロンテ友研プログラム第 17 回シンポジウムとブロンテ伝説展の開催	田中真知子 35
京大ブロンテ友研プログラム第 17 回シンポジウムのあらためてブロンテ	池野百合子 39
北沢氏の説からみた文壇と文壇	西谷野子 47
雪国賞選評会からの文壇	
日本にたいして文壇には何となく一白と文壇、神と文壇	鈴木正史 54
ブロンテ王宮の物語について―言語と移住の現状と未来? (Lisako 語を例に)	西沢文子 63
西沢文子の成長	宮谷 至 75
雪国賞選評会で行った Field Work の事 (雪国、足尾、バード)	田中真知子 84
書評・資料・エンター	
ブロンテの国際シンポジウム 1920 年と 2004 年を比較する「部分のつながり」	
―英国選評会に対する「書評」をめぐって―	田中真知子 96
ケルン・シュタット・ライプツィヒのブロンテ・センターの設置	田中真知子 106
日本と雪国の関係―雪国を題材とした小説の作家の民族意識―	田中真知子 119
デラヴァー・コミュニティ・ヘルスセンターの歴史	田中真知子 129
編集後記	138

	ISSN 0914-8620
 Himalayan Study Monographs No.20 2019 	
Preface.....	Editors.....
 The 17th Mission of Kyoto University of Education	
A Journey to Great Natural Scapings of Bhutan.....	
The 17 th Mission of Kyoto University of Education Program.....	<i>Tamara Matsuzawa et al.</i> 2
Sister between Bhutan and Kyoto: A Photograph Taken in Kyoto, 1917.....	<i>Ayumi Sakamoto</i> 11
The Report on 17 th mission of Kyoto University of Education and the Bhutan Friendship Program.....	
and the Consideration of Traditional Medicine in Bhutan.....	<i>Endo Kaori</i> 33
My Impressions from the 17 th Mission of Kyoto University and the Bhutan Friendship Program.....	<i>Miki Furutani</i> 50
Life and Culture in a Comparative Perspective.....	<i>Yuko Nochioka</i> 67
 Contribution from the Yamanote Forum	
What is the Motivation for Japanese People's Name and Men, Karumi and Buddhis.....	<i>Masataka Sasaki</i> 84
Language in the Kingdom of Bhutan — Linguistic Diversity.....	
With Special Reference to the Lhotsho Language —.....	<i>Fuminobu Nishida</i> 63
The Begining of the Romantic "Western Region".....	<i>Hara Tomoya</i> 75
Outline of Fieldwork Trips by Yamanote Forum (Yamanote, Karumi and Nepal).....	<i>Etsu Masuda</i> 84
 Original Articles, Report and Essay	
"Palatial Consciousness" between Bhutan's Great Natural Heritage (GSH) and Economic Growth Policy.....	
— Exploring Implication Lessons for Daogrowth-Enrichment —.....	<i>Katsuhiko Masuda</i> 96
The Revival of the Preamble 'Tag of War,' a Harvest Ritual in Hapoo in Northern Laos.....	<i>Yoshihiko Hatawae</i> 106
Materials about the Dances of the Primatology in Japan.....	
Stored in the Archives of National Museum of Ethnology.....	<i>Yuki Kurogi</i> 119
Siting at Strong Community Health Center.....	<i>Yasuko Ishikawa et al.</i> 129
A Letter to the Editor.....	 138